

(2) 女性の就労支援

働きたい女性の就労支援（行政と市民のパートナーシップによる運営）

千葉県松戸市総務企画本部女性センター

(H17. 4. 1 現在人口 473, 187 人)

TEL 047-364-8778

FAX 047-364-7888

メールアドレス

ホームページ

mcjosei@city.matsudo.chiba.jp

<http://www2.city.matsudo.chiba.jp/uyu.matsudo/>

○ 目的・概要

松戸市では、平成15年度より松戸市男女共同参画プラン第2次実施計画がスタートし、その中の重点施策として「働きたい女性の就労支援」を掲げています。その推進にあたり、働きたい女性が個々の希望やライフスタイルに合う就労が実現できるように、併せて母子家庭などの女性が経済的に自立できるようにするための支援として、平成16年度にセンター内に「しごとサポートコーナー（正式名称：働きたい女性の就労支援コーナー）」を設置し、「しごとサポーター（正式名称：働きたい女性の就労支援コーナー運営委員）」を配置しています。このしごとサポーターは松戸市女性センターが養成した市民ですが、女性センターとの連携のもとに、コーナーの利用者に対して情報提供・学習・働くことに向けた総合的なアドバイスなどを行っています。同時に、コーナーでは、働く上で必要な両立支援サービスなどの環境整備情報も含めた「情報のワンストップ化」も目指しています。

併せて働きたい女性のエンパワーメントを目的に「働きたい女性の講座（全10回）」も実施しています。

なお、上記2つの事業は、平成14年度に松戸市で実施した「女性の就労に関するアンケート調査」の結果をもとに作成した「女性の就労支援プログラム」に基づいて実施しているものです。

○ 特徴

・「しごとサポートコーナーの運営」…市民が市民を支えるシステム

当コーナーは、女性センター主催の就労支援者養成講座（延べ54時間）を修了し、ボランティアとして経験を積んだ人（市民）を、平成17年度より「しごとサポーター」として市が委嘱をし、女性センターとの連携のもとに運営しています。

働きたいという意味を持っていても、その気持ちを継続させて実現に向けることはなかなか大変であるという実情を踏まえて、松戸市では女性の就労支援事業を次の2つの視点から事業展開することとしました。

① 働きたいと思ってもなかなか踏み出せないでいる人にとっては、身近で気軽に相談できる人や場所を確保することが必要である

② 市民の中には、女性が働くということに対して自らの体験などを通して共感し、支援したいという人達がおりますので、その人材を発掘・養成し、地域に貢献できるようにする

ということで、市民が市民を支えるというシステムを構築しました。一方、働きたい女性を支援する「しごとサポーター」自身も、その業務に携わることで、自らのエンパワーメントに繋がっていくという状況を作っています。

・「働きたい女性の講座」

全10回の講座について、「自分探し編」「スキルアップ編」「就職活動準備編」の3部構成とし、働きたいという気持ちのある人のエンパワーメントを目的に系統立てたカリキュラムとしています。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

・ 市民が市民を支えるというシステムを構築するにあたっては、まず、女性の就労を支援する市民を養成しました。その養成講座は、サポーターとして必要な最低限の知識・スキルの習得と、サポーター同士の仲間づくりを主とした内容であり、講師の熱心な指導もあり、受講生は意欲的に取り組んでいました。しかし、養成講座修了後に、先例のないこの取り組みに対して受講生自身のめざす姿が見えにくく、どのような形で「しごとサポートコーナー」を運営し、サポーターとして、どのような支援をしていくのかなどについての疑問や不安が多く出されました。そこで、「共に作り上げていく」という基本的な姿勢の基で、受講生と女性センター職員がイメージを共有するために何度となく話し合いを持ちながら、「私たちがめざす支援の方向性」を確認し合い、その結果として「働きたい女性の就労支援対応マニュアル」を作成しました。さらにフォローアップ研修やコーナーでのシミュレーションを実施し、併せてコーナー開設準備も共に行いました。

・ 上記の状況を経て、平成16年11月に女性センター内に「しごとサポーター」を配置（平成16年度は

ボランティア)し、広報やちらし等を通して「しごとサポートコーナー」をPRし、現在、利用者増をめざしているところです。開設当初は、試行錯誤の中で、コーナー運営をしてきましたが、現在では、「働きたいという気持ちはあっても、家庭にいる期間が長く、なかなか一歩が踏み出せない」など、女性であるが故に抱える問題についても共に考え、働くという意思を持ってハローワークに出向けるようになるまでの後方支援や利用者自身のエンパワーメントにいかに関わっていくかということが、しごとサポーターの使命であるということをサポーター自身が認識し、業務に携わっています。また、コーナー利用者から「話を聞いてもらえてよかった」「気持ちがラクになった」「いい情報をもらえました」などの声もらえるようになったことで、支援の方向性や事業を実施することの意義がより明確になってきたところです。

○ 平成 17 年度における予算額・従事する職員数

・ 予算額	計	535,420 円
＜しごとサポートコーナーの運営＞		
しごとサポーター報償		160,000 円
しごとサポーター保険負担金		20,820 円
＜働きたい女性の講座＞		
講師謝礼		300,000 円
保育者謝礼・交通費		54,600 円
・ 従事する職員数		
＜しごとサポートコーナー運営＞		2 名
＜働きたい女性の講座＞		2 名

○ 取組による効果、参考データ等

- ・ しごとサポートコーナー利用状況（平成 16 年 11 月～平成 17 年 3 月末）
開設日数：39 日間、利用者数：75 人、一日あたりの平均利用者数：1.9 人
情報提供件数：132 件
- ・ 働きたい女性の講座受講状況
講座開催日数：10 日間、受講者数：延べ 201 人

○ 今後の課題・方向性

- ・ 女性センターで実施している就労支援事業について、より多くの市民に周知をしていくために、現行の手段（市の広報紙・ちらし）以外に有効なものを考え、工夫していきたいと思えます。
- ・ コーナーの利用者や講座の受講生に対しての追跡調査として、就労に結びついた事例やデータを収集し、コーナー運営や講座のあり方について、検討していきたいと思えます。

○ その他特記事項

しごとサポートコーナーは、市民と行政のパートナーシップにより運営しているものであり、また、一市民である「しごとサポーター」が、就労を希望する市民を支えるという「市民が市民を支えていく」というシステムは、本市独自の特徴的なシステムであると思っております。

女性の元気支援モデル事業

高知県土佐清水市じんけん課

(H17.4.1 現在人口 18,183人)

TEL 0880-82-1111

FAX 0880-82-3535

メールアドレス yamada_nobuyuki@city.tosashimizu.kochi.jp ホームページ

○ 目的・概要

過疎地域における未利用公的施設を活用し、地域食材を活かした特産品開発を実施、一次産業の家族就業・家事労働（アンペイドワーク）が主たる労働となっている現状から、女性の所得獲得機会、就労の場づくりを支援し、過疎地域における女性による地域の元気づくりを目的としている。

○ 特徴

平成14年度より事業を開始し、女性グループが未利用公的施設である共同作業所を活用して事業を継続実施している。

そのうちある地域の女性グループ（5名）では、「さかなのまち土佐清水」をアピールするため低価格魚種への付加価値づくり、無添加、手作りの安心食材として、平成16年度までに5魚種10品目の商品を開発してきた。

高知県主催の「土佐のいい物、おいしい物発見コンクール」において、本事業による開発商品から平成15年度に「かます生ふりかけ」が優秀賞、平成16年度に「めじかのそばろ」が審査員特別賞を受賞している。販売額は少ないものの地道な活動を継続し、その活動は他地域の女性グループ等にも波及している。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

作業所はあるものの、ゼロからの事業開始であり、全くの素人集団の活動に県工業技術センターをはじめとする関係機関から専門的な指導が得られ、行政担当者も女性グループとともに活動することで、情報や技術を共有し、官民一体となった取組が展開できた。

また、第3セクター（株）土佐食（市内水産加工施設）との業務連携を強める中で、PB（自ら企画生産して販売する独自ブランド）商品開発などの取組を進める事で、女性グループの安定就労と市外販路の開拓が期待される。

○ 平成17年度における予算額・従事する職員数

予算額 750,000円

職員数 0.5人

○ 取組による効果、参考データ等

未利用公的施設の活用方法としてモデル的なケースであり、少人数グループでも取組ができるという事業例として一定の情報発信を果たした。

現段階では大きな事業効果は表れていないが、今後の事業展開次第では過疎地域における女性の起業グループとなる可能性もある。

○ 実施にあたって活用した支援制度

高知県男女がともに参画する社会づくり事業（高知県文化環境部男女共同参画・NPO課）
（エンパワーメント推進事業（県補助1/2以内））

○ 今後の課題・方向性

市内既存企業との業務提携等によって安定操業、安定就労に一定の目途がたった事から、今後は主体的活動を完全自立にむけ企業意識をもった活動へと展開する必要があるとあり、女性グループ自体のさらなる意識改革が求められる。

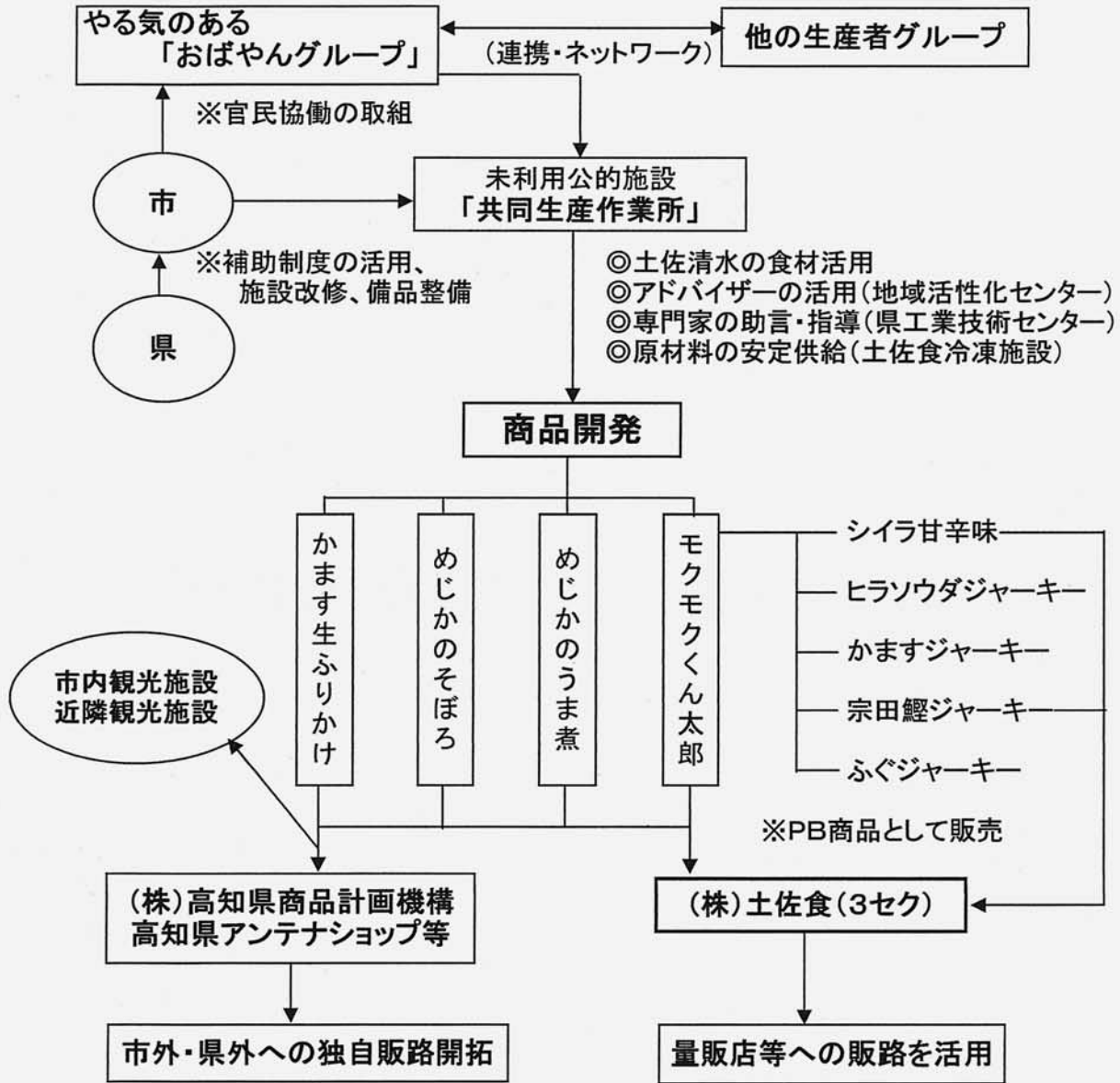
女性のチャレンジ支援モデル事業

高知県土佐清水市
実施年度 平成14年度～

◎過疎地域における現状・課題

少子高齢社会の進展、働く場の減少、若者の流出、地域経済の疲弊、
1次産業における後継者不足…………

1次産業を支える女性たちに現金収入を生み出すシステムづくり、女性の元気づくりとして



統廃合によって休廃校となった学校・保育所を活用した女性の起業を目指す。